

# アムスルだより

No.48 2001年 3月10日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



## 今年も感動をありがとう

### -ザトウクジラ-

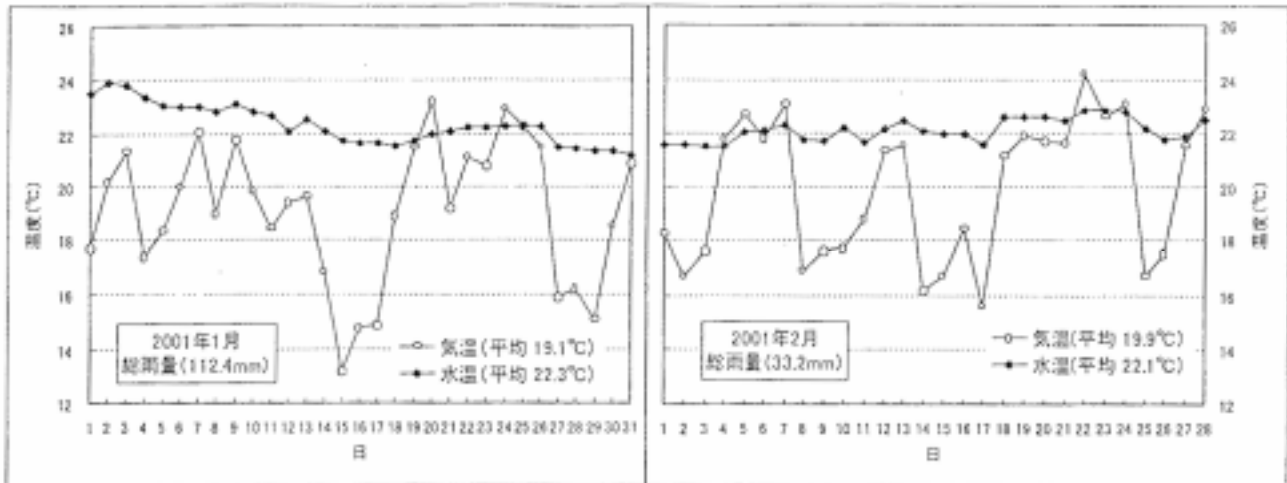
ずんぐりした体、アゴにあるごつごつとしたコブ、巨大な胸ビレ。このようなザトウクジラの体つきは、同じ仲間のナガスクジラ類がどれもよく似た体つきをしている中で、ひときわ目立つ特徴です。また、海面上で行われるさまざまな種類の曲芸的な行動も、ザトウクジラならではの特徴です。特にブリーチングと呼ばれる、重さ 30 トンの巨体が宙に舞う<sup>ごうかい</sup>豪快なひねり背面飛びは、金メダルをあげたくなるほど、見る人々に感動を与えます。今回は、まさに今ケラマの海に来ているザトウクジラのお話をしましょう。

ザトウクジラは毎年 12 月から 4 月までの間、子育てと繁殖<sup>はんしよく</sup>のために私たちがすんでいるケラマ列島の海を訪れます。では、いったいこれまで何頭くらい来ているのでしょうか？ケラマ海域でのザトウクジラの個

体数調査は 12 年前(1989 年)から本格的に始まりました。ザトウクジラの尾ビレの腹側の模様は一頭ごとに異なるので、この尾ビレを写真に撮ることで、何頭のクジラがいるのか数えることができます。WWF ジャパンと座間味村ホエールウォッチング協会の調査データによると、1989 年から 1990 年の間に確認されたクジラの数はずかには 18 頭でしたが、その後毎年続けて調査した結果、去年の 2000 年までに、合計で 218 頭のザトウクジラがケラマ海域を訪れていることがわかりました。

成長したオスのザトウクジラには、歌をうたう“シンガー(歌手)”と呼ばれるものがあります。この歌にはちゃんと楽譜<sup>がくふ</sup>があって、ケラマ海域のオスたちは基本的に同じ歌をうたうといわれています。座間味村のウォッチング船では、この歌を聞くために水中マイクをもっている船もあり、船の上で神秘的かつユニークな鳴き声<sup>しんびてき</sup>を聞くことができます(鳴き声とはいっても、実際は鼻<sup>はな</sup>の奥<sup>おく</sup>にある袋をふるわせて音を出します。人間にたとえると“鼻歌”になるのでしょうか)。この鳴き声は 30 キロ以上もはなれた仲間たちにも聞こえているといえますから、ケラマ海域でうたっているクジラたちの鳴き声はきっと久米島や沖縄本島の近海を泳ぐクジラたちにも伝わっているこ

## 阿嘉新港での定点観測



とでしょう。また、このザトウクジラの歌の意味については十分にわかっていませんが、オスがメスの気をひくための求愛の歌であるとか、オス同士の強さの順位を示すものであるとか、いろいろな説があります。

さて、今年もケラマ海域では何頭かの赤ちゃんザトウクジラが誕生しました。生まれたばかりの赤ちゃんクジラに寄り添うお母さんクジラは、まだ自分の力でうまく呼吸のできない赤ちゃんクジラを下から頭でささえたり、おなかがすけばお乳をあたえたり、サメなどの敵のこうげきから守ったり、オス同士のあらそいに巻き込まれないようにと、とても神経を使っています。そのため、座間味村ではこれらの親子クジラをホエールウォッチングの対象外として温かく見守っています。

ホエールウォッチングのシーズンも残り半月あまりと、終わりに近づいてきました。そろそろクジラたちも、もう一つのふるさとである北極に近い海のエサ場に向かいはじめます。毎年私たちの島のまわりで繰り広げられる力強く、心温まるドラマをこれからも見守っていききたいものです。そして、いつまでもケラマの海がザトウクジラにとって過ごしやすい環境でありますように。

## 阿嘉島の海より

### -座間味村産業まつり-

先月中旬に座間味村産業まつりが行われ、アムスルも「砂浜をつくるホシズナたち」というテーマで、ケラマ列島のきれいな砂浜をつくる単細胞動物ホシズナたちについて展示紹介しました。ホシズナたちがつくる砂浜は、私たちが遊んだり海水浴をしたりする場所だけでなく、ウミガメのふるさともあり、海の水をきれいにする働きもあります。このような砂浜をいつまでも大切に残していくためにも、ホシズナたちがすみやすい海を守っていきましょう。また、今度潮干狩りに出かけたときには、足元の岩や海藻を観察してみましょ。きっとホシズナがたくさん見つかるはずですよ。

2月は予想に反して、天気のいい日が続きましたね。その影響なのか、例年ではこの時期 20 度近くまで下がる水温も、今年は 21 度を下回る事がなく、暖かな冬の海だったと言えるでしょう。この海の中の“暖冬”が今年のサンゴの産卵にどう影響するのでしょうか？次号では、今年のサンゴの産卵情報をいち早くお伝えしたいと思います。お楽しみに！